

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度第 2 回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和 6 年 9 月 3 0 日（月） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所	真庭市役所 本庁舎 3 階会議室
出 席 者	<出席委員> 1 4 名 小畑委員、杉本委員、柿本委員、鈴木委員、清水委員、 庄司委員、谷口委員、小谷委員、苦田委員、難波委員、 坂本委員、樋口委員、大塚委員、二若委員 <欠席委員> 1 名 道満委員 <事務局> 6 名 健康福祉部子育て支援課 吉原課長 健康福祉部子育て支援課 広岡こどもはぐくみ担当課長 健康福祉部子育て支援課 神庭こども家庭センター長 健康福祉部子育て支援課 渡辺課長補佐 健康福祉部子育て支援課 二宗係長 健康福祉部子育て支援課 水島上級主事 <オブザーバー> 1 名 教育委員会学校教育課 田中課長 <委託業者> 2 名 株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング(PMC) 山口正直、伊藤夏樹
傍 聴 者 数	<傍聴者> 3 名

次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 （１）久世第二こども園（仮称）建設計画について （２）こども計画に関する意識・実態調査結果について （３）真庭市こども計画骨子（案）について 4 そ の 他 5 閉 会
------------	--

1 開 会

（事務局 広岡課長）

皆様、こんばんは。本日は、ご多用のところ遅い時間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日 15 名の委員のうち 1 名の委員から欠席のご連絡をいただいております。従いまして、14 名の方が出席され、過半数を超えておりますので、真庭市子ども・子育て会議条例第 5 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことを、ご報告いたします。ただ今から、令和 6 年度第 2 回真庭市子ども・子育て会議を開会いたします。はじめに、小畑会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。

2 挨 拶

（小畑会長）

今日は事前にお手元の資料を郵送させていただきましてボリュームがありますが、アンケートの調査結果と集計を踏まえて、委託業者の方から詳細なご説明をいただけるということで盛りだくさんの内容となっております。

それでは（１）「久世第二こども園（仮称）建設基本計画」についてよろしくお願いいたしますします。

3 議 題

（１）久世第二こども園（仮称）建設計画について

～（事務局 吉原課長） 資料説明【資料 1】～

（小畑会長）

ありがとうございました。数か所変更があるということでした。この点に関しまして、委員の皆様ご意見等ございますでしょうか。

(事務局 吉原課長)

現在の状況ですが、先日設計業者等が決まり、今は本格的に設計の内容の検討に入っています。今年度中に設計を終えて、来年から2年間かけて建設していきます。

(小畑会長)

当初より時期がずれるとういことです。しっかり計画を立てて進めていく案でございます。この件はこれでよろしいでしょうか。では、この件はこれで進めていきます。

次の議題「(2) こども計画に関する意識・実態調査結果について」よろしくおねがいいたします。

(2) こども計画に関する意識・実態調査結果について

～(事務局 二宗係長) 資料説明【資料2】～

～(PMC 山口氏) 資料説明【別冊】～

(小畑会長)

ありがとうございました。今回わかりやすい内容で分析をしてもらっていますが、このあたりもっとこんな分析がほしいとか、気になる点について何かあれば。

まず、こどもの生活に関する実態調査、小学5年生、中学2年生についていかがでしょうか。

(苦田委員)

「学校の勉強でわからないことがあるか」という問いについて、小学5年生273人中、わからないことが多い3.3%、ほとんどわからないが2.2%、5人に1人、大体13～14人ぐらいがわからないと。中学2年生はわからないことが多い7.5%、ほとんどわからないが2.4%で合わせて約1割の29～30人がつまづいているということです。学校に行くのが大変とかで違う流れに行く子が多いのではないかと。

SNSについて、顔を知らない人とお友達を作るお子さんがいるというのが怖い気がします。聞いたことがある話ですが、「学校の勉強についていけない」と先生に相談したら「塾に行かしてあげてください」と言われたそうです。塾に行くお金がないという親御さんの答えもありました。お金がないから勉強ができないという。真庭市自体が塾を作るのもありではないでしょうか。よそでされているところもあるということなので、やっぱり勉強をしたいという子にはさせてあげてほしいし、分からない子たちには学校の先生も多忙で手をかけられないかもしれませんが、力をつけてあげることが大事なのではと思います。

(小畑会長)

勉強についていけない子どもたちへの対策が必要というご意見ですが、何かお答えできますでしょうか。勉強についていけない子どもたちの中で何か聞かれていることがありましたらお願いいたします。

（オブザーバー 田中課長）

学校では勉強が分からないことはしんどいという捉えで、わかるようになってほしいというところで、学校によって様々な取り組みをしているところです。基礎的な力をつけるために朝学習や、いろんな方法で漢字を学校で勉強したり、計算大会など学校ごとに取組をしています。それで十分という状況ではないですが、勉強に特化すると学校に行くのがしんどくなるというようなこともあるので、バランスを取りながら各学校で取り組みをしています。十分と思っているわけではないので、日々どのようなやり方がいいのかというところを研究しながら進めているというところです。

（小畑会長）

これを資料・素材として次の展開にどうしていくのかというのが次の議題とも関連してくることと思いますので、また一緒になって考えていけたらと思いますが一つの重要な指摘だとは思いますが。続いて、就学児童、就学前の保護者についてはいかがでしょうか。「地域や社会に支えられていると感じる」が60%を超えているということで、一定程度以上は現状に満足している保護者が多いと読み取ることもできるかなと思っております。一方で悩みに関して、公共の相談窓口に行きづらい人も多く、そこは課題になってくると感じていたところです。専門的な情報というところ、発達障害というようなことも含まれると思いますが、もう少し突っ込んでいけるといいのかなと感じた次第です。

（小谷委員）

これは無作為で選ばれたのですか。

（事務局 広岡課長）

就学・未就学は保護者が被らないようにしたのと、18歳～39歳についても被らないようにしました。

（小谷委員）

アンケートが来たので頑張ってやったんですが、途中時間がなくてやめたんです。これ考えるモチベーションはすごいモチベーションです。そういう人たちがどういう思いで答えたのかを考えたらこのアンケートの意味がわかるのではと考えました。何か悩んでいる人がアンケートに答えた。悩んでいない人は別にいいんじゃないかという人も結構いると思います。

(小畑会長)

アンケートの普遍的な問題だと思います。アンケートの限界ということもあるかと思いますが、この回答してくださった中で考えるしかないということでもありますので、貴重なご意見ありがとうございます。

(小谷委員)

こどもたちの回答は学校を通じてされたのですか。

(事務局 広岡課長)

はい。学校を通じてタブレットでしていただいております。

(小畑会長)

18～39 歳若者の結果について、回答した人の 10%が引きこもりになっているというような結果ですが。

(大塚委員)

このアンケートの結果から、どういう施策が考えられるのか聞きたいです。

(小畑会長)

現段階の案があれば、教えてほしいということですが、いかがですか。

(事務局 広岡課長)

今回の計画はいろいろな計画を包含したものになっております。40 歳までを若者として捉えるというような計画になっており、くらし安全課が担当部署になる、ひきこもりのことも社会的な課題になっており、これだという支援というのなかなか難しいんですけども、地道な支援を継続してやっていく内容になると思います。一つには子育てと仕事の両立も含めてワークライフバランスのところや、子どもを育てたい人の希望のところでは、希望の人数と実際にもてると思うこどもの人数に差が出ている。希望はもう少し多いが、実際に産むとなるとそれよりは少なくなる。現時点では、施策の方向性ぐらいしか検討できていないですが、アンケートの結果をもとに具体的にどういう支援が必要かをこれから担当課と調整し進めていきたいと思っています。

(小畑会長)

18～39 歳対象のアンケートの問 46「真庭市にどういう取組をしてほしいか」について、明確にいくつかあがっており、イベントの開催や居心地の良い居場所の提供など。イベントを単発ですするというのも取組やすいことかと個人的には思いました。何かアイデアみたいなものあればいかがですか。

（大塚委員）

真庭市は週末にはいろんなイベントがある。そこにどういう風に参加していくのかとか、問 18 以降見ると地域活動への参加については積極的ではないように思える。地域活動に参加したいと思えることが大事だし、本人の問題や、いろんな地域の活動、消防団とかも参加したい活動なのかと追及する必要はあると思います。

出会いとかも地域活動やイベントに参加してこそ出会いがあると思う。出会いたいなら参加すればよいのにとします。

（小畑会長）

年代が広いアンケートで、年代別に 20 代、40 代でも回答内容が違うと思いますので、例えば年代別にその回答を作るとその世代に応じたアプローチができるのではと今の話をお聞きして感じたところです。

（樋口委員）

若者のひきこもりについて、年代などもあり、捉えづらいところではありますが、10% いるのは大変な事と思います。年代別とかしっかりと見ていかないといけないですし、どういうことに手を打っていくかということが重要になってくるので、年代層別の集計をしっかりとやる必要があります。他の設問でもそういう区分けをしていかないと少し逆に間違った見方になってしまう部分もあります。

（小畑会長）

ひきこもりにならないような予防策を早期に展開していく必要もあるかなと思うので予防に関する取組ができていくのではと感じました。

（苦田委員）

問 7 の「現在の暮らし向きについて」、どちらかという低いと感じるのが 63 人、低いと感じるのが 39 人、合計 99 人。4 人に一人は暮らし向きは厳しいと考えているということです。暮らし向きがしんどいのに、夢や希望を持って結婚とか考えるのでしょうか。結局給料が安いという問題がある。1/4 の方が自分に余裕がないと感じている中、こどもを育てるのに心とお金も余裕が無いとやっていけないしというところだと思います。

（小谷委員）

お金の問題が大事という話ですが、私はあまりお金は関係ないと思います。極論ですが、世界的に見て貧困の国だって子どもが生まれている。もっと気持ちのモチベーションの問題ではないかと思えます。お金を出せば結婚するとかじゃない。今この日本の社会状況、本当に別の所に問題があるのではと思います。

（鈴木委員）

谷口委員と縁結び委員をしており、独身の男性を呼んで、婚活イベントや現状の調査をしています。男性が消極的。本人の問題かなと思うところもあります。

（小畑会長）

結局男性の問題ということでしょうか。そういうご意見もあるということで、ただ経済的な問題も大きいものであるけども、それが全てでなく、個人のパーソナリティもありましょうし、収入があれば結婚ができるというものでもないですね。ただ一方で生活に余裕がないというのは、お金だけで余裕があることを測る項目ではないと思います。日本全体がそういう雰囲気漂っているというのは皆さん同じように感じておられるのではないかなと思うところなんですけれども、そこをなんとかしようというところなんですけれども。

（谷口委員）

出会いの場に参加する男性は真面目でおとなしい。女性は明るくて綺麗で若い人も多いんですが、男性が真面目すぎて魅力がない。こちらが場を作って話題を作って場を離れるがもたない。真面目で良い人ばかりなんですが、二人で話ができないという点もあり、性格的なもの。

（小谷委員）

最近はインターネットでの出会いも多く、ここの出会いが多いのでは。

（鈴木委員）

小学校の保護者の再婚もインターネットでの出会いと聞くこともあります。

（大塚委員）

個人の問題であると思えます。女性を引き付ける魅力がある人は、どういう形成を経てそうなったのか。そこが大事かなと思ったりもします。遊んだり、努力もあるかな。勉強だけしたらいいよというわけではない。遊んでいることも評価しないと。子育ての問題でもあるのかなと思います。

（小畑会長）

人との関係性の取り方やコミュニケーション能力というお話だと思うんですが、そこも日本人の課題の一つだと思います。男性に限らないことも多々ありますし、なので出来る範囲で婚活へのサポートを自治体はされているところではあると思いますが、より一層力を入れる必要があるというのはこの結果からもわかってきたのではないでしょう

か。そのほか、気になることがあれば事務局までご連絡をお願いします。

（３）真庭市子ども計画骨子（案）について

～（事務局 二宗係長） 資料説明【資料３】 ～

～（PMC 山口氏） 補足説明【資料３】 ～

（小畑会長）

基本理念と施策について進捗案としていただいております。家庭や地域の中で自分が大切な存在であることを実感することができると。事務局案に関していかがでしょうか。

この中の文章の「自分が」というのは子どものことでしょうか。

（事務局 広岡課長）

「こども・若者」のことです。

（小畑会長）

基本理念について何かご意見等ありますでしょうか。特にないということで。

続いて施策の柱については５つありましたが、こちらはいかがでしょうか。

５番のワーク・ライフ・バランスという、家庭と仕事の両立。圧倒的に女性も働いている家庭が増加しているの、特に重要になってきていると思うのですが。この５つでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。では、基本理念と施策の柱に関してはお認めいただいたということで。事務局案に関して何かあればいかがでしょうか。

（小谷委員）

こども・若者の権利について、セットになっているがこどもの権利は保護者から見た権利ですか。本人は小さければわからないのでは。本人の権利。保護者から見てこどもにちゃんと生きてもらうみたいな権利になるのかな。

（樋口委員）

こどもも若者も１人の権利を持った主体としてみる。親がどうか周辺の人がどうか誰かが見てどうこうということではなく、１人の人権・人格をもったものとしてきちんと見てあげるということ。

（小谷委員）

守ってあげるみたいなもの。

（樋口委員）

守ってあげる。その権利を保障しながら。何かの条件の差によって何か差ができるということではなくて。

（小谷委員）

平等にということですね。こども・若者に分けて一緒にすることでどこまでか難しい。自分も子どもだったら、例えば一日中ゲームしたいと思う。その権利の中で子どもが言うようにできないこともあるので考え方としては難しいなど。

（大塚委員）

こども・若者の権利は重要であるが漠然としていてわからない感じがある。逆にこども若者の権利が尊重されていない現状とはどういうことかを共有すべきではないでしょうか。

（小畑会長）

なるほど。貴重なご意見ありがとうございます。あえてこういう文言があるということとはそうではない現状があると。そういう現状とはどんなことなんだという具体的な例とかシェアしたいというご意見が出ておりますがいかがですか。

（事務局 広岡課長）

昨年度、こども家庭庁が発足し、こども基本法が新たに策定されましたが、社会全体でこどもが置かれている状況がとても厳しい現状があります。真庭がイコールではないですが、例えばこどもの貧困や虐待は、こども権利が大人に守られていないのではないかなという大きな問題があると思います。そういう中で法律が整備されたり、こども大綱が設置されたり、国全体でこども・若者の権利を守ろうということで、このこども計画もそういった趣旨に沿って作ってっております。真庭市が進めているこどもはぐくみ応援プロジェクトの冒頭にもこどもの権利を記載しています。権利条約のことや4つの原則について触れ、1人の人間として権利を認め、こどもまんなか社会を目指すことを国全体で進めています。

（小谷委員）

最低限の権利をというところですね。

（大塚委員）

大体わかったんですが、先ほど小谷委員が仰った、一日中ゲームをしたいというのはこどもの権利なのかどうなのか。

（樋口委員）

それを権利ということかということだと思いますが、大人の事情、世の中の事情によって守られるべきものが守られていない。それによって差が出てしまうことを防ぐ必要がある。勉強がしたくて塾に行きたいけど経済的な理由で塾に行きたくてもいけないというところをどう配慮してあげるのか。全部が全部解消できる話ではないが、大人がそういう意識をもって、主体になって子どもを守る。イスラエルやレバノンの話が今もありますが、大人の社会によって、学びたい、遊びたい、そういうものが守られないなどしたいことができないなど普通にあるべきものがなくなっているということを捉えてる。

（小谷委員）

ちなみに塾に行きたいというのも権利に含まれますか。

（樋口委員）

学ぶ権利を保障するということ。学校だけでなく学校以外でも本人が学びたい、これ以上学びをしたいことは学校でも保障されていることだが、子どもたちの探究心的なところ向上心を含めてそういうものもさらにということ。

（小谷委員）

ゲームも一緒では。

（谷口委員）

学校に行ったり遊ぶ時間とか普通に子どもが生活する一日のサイクルというかそういうこどもの権利。きちんとご飯を食べるとか普通の生活をする権利ですね。

（小畑会長）

ありがとうございます。子ども・若者の権利の間に、例えば学ぶ権利やキャリア選択などいろんな言葉が入るのではないかと、お聞きしていて感じましたが、最低限の生活をし、生きて学んで働いたりそういう意味でここでは使用されているということでしょうか。

（苦田委員）

自由記述にはもの申したい人が本気で書いている。市長にアンケート結果を読んでほしい。本気で育児している人の真庭市に対する意見。これに目をつむってもらうことはいけない。市には悪いことも言ってよくしてもらう。

（小畑会長）

自由記述についてはすべて拝見しました。かなり厳しい意見もあります。ただ一方で満足している意見もあります。否定的な意見がすべてではないです。子育て、生活の

苦しさはひしひしと伝わってくる内容でした。市長にも読んでほしいという要望があったということをお伝えください。

（事務局 広岡課長）

市長にはすでに渡しておりまして、会議などで説明させていただきます。

（小畑会長）

それを踏まえたうえでアンケートを反映していけるように力を合わせていけたら思っています。以上が議題になりますがそのほかはよろしいでしょうか。

（事務局 広岡課長）

事務局から追加資料でこどもはぐくみくらぶと座談会の資料を出させていただいております。公募したお母さんが子育ての情報をInstagramやXで発信しています。ぜひフォローして、お母さん方の情報発信を見てもらえたらと思います。計画策定のため子育て世代の方の生の意見をもらうために子育て座談会をする予定です。参加者も募集しております。

（小畑会長）

そのほかよいでしょうか。では事務局に戻します。

（事務局 広岡課長）

長時間にわたり貴重なご意見ありがとうございました。皆様方からいただいたご意見を参考にしながら、計画の素案に向けて進めて行きたいと思います。それでは閉会にあたりまして、杉本副会長のご挨拶の方よろしく願いいたします。

（杉本副会長）

長時間ありがとうございます。良い意見が出てこの会議を今終わるのはもったいないなと思いながらここに座らせてもらっておりました。今度の時もしっかりみなさんご意見を発言をしていただければありがたいと思います。

真庭の未来の子どもたちのための会議ですので、私たちも誠心誠意、一生懸命頑張って協力して進めていきたいと思っております。アンケートに厳しい意見があることは私も拝見しました。若者の気持ちお母さん、お父さんの気持ちだなというのは感じました。各年代の気持ちを十分に汲んで活動していきたいなと思っております。本日はありがとうございました。